

# 西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.90 2013年2月号

昨年の年末に行われた衆議院議員選挙の影響で発表が遅れていた、平成 25 年度の税制改正大綱（税制改正案）が先月の 24 日に発表されました。その内容については弊社の「ふたば便り」をお読みいただければと思いますが、今月は「税金」について考えてみたいと思います。

税金は言うまでもなく、私たちが暮らすこの社会を維持するために必要なものですから、それを納める必要があることは誰でも理解していると思います。ところが、直接モノやサービスを購入するのとは違って、税金の対価というのは納めた人にダイレクトにはね返ってくるとは限りませんし、そもそもその対価が目に見えないものだったりするために、税金を納めることに抵抗を感じる人が多いのだと思います。おまけに、私たちが納めた税金が 1 円の無駄遣いも無く有効に活用されているのであればまだしも、1 円どころか相当な無駄遣いをされているかもしれないというマスコミ報道などを見てしまうと、ますます税金を納めるのがいやになってしまうでしょう。

会計事務所という仕事をしていると多くの経営者の方とお付き合いがありますから、税金が給与から天引きされる一般のサラリーマンの方と比べて税金に敏感な方が多く、よくご相談を受けるのが「少しでも納める税金を少なくしたい」ということです。会計事務所とはいえ私自身も経営者ですから、こうした方々の気持ちはよくわかりますし、余分に税金を納める必要はないと思っていますので、合法的な範囲で納める税金が多くなるか少なくなるかの選択をしなければならない場合には、もちろん税金が少なくなるほうの選択をご提案します。ただ、節税ということに目をうばわれてそれがあまりにも行き過ぎてしまうと、経営そのものにまで悪影響があるということも、これまでの経験上言えることです。これについてはパナソニックの創業者で経営の神様と言われた松下幸之助さんも次のようなことを言っています。

「将来大をなそうと思うのなら、経営はガラス張りにすべきです。（中略）税務署は儲け以上のものは取りません。少しでも少なく税金を納めることに頭を使うくらいなら、今以上に儲けることに頭を使うべきです。」

儲かっているからこういう考え方ができるのか、  
こういう考え方をすると儲かるのか、みなさん  
はどう思われますか？

